

秋田工芸展・16回展の変更点について

- ①審査員が増員されました。（4名→5名）
- ②入賞作品に対してだけだった審査員寸評を、入選作品にも頂戴することにしました。
- ③全国規模の公募展入賞経験者や全国規模の工芸団体所属者の応募作品は、無鑑査として展示させていただくことにしました。

秋田工芸展の開催趣旨には「秋田県工芸の発展に寄与」したい旨が記されています。

そこには、秋田県工芸の「裾野を広げたい」「底上げをしたい」という願いが込められています。工芸に携わる人を増やし、レベルアップをはかっていきたい…という事です。これは、秋田工芸展の基本理念として、検討を積み重ねて準備していた頃から根底にある考え方なのです。

プロとアマの区別無く、同じ土俵で相まみえ、互いに益となる展覧会にするために、四評価軸による点数制という仕組みを編み出しました。この秋田工芸展で、刺激を受け、発想力を高め、技を磨き、入選・入賞を積み重ねて実力を蓄え、やがてより高みを目指して、全国へと世界へと羽ばたく者が現れて欲しいという事が秘かな期待でもありました。

そういう意味では、秋田工芸展は飛躍のための『踏み台』であるとも言えるのです。匠・発・展・拓の各評価軸賞を設けていることから分かるように、上に向かって伸びようとする者への激励という側面もあります。当協会の会員で現代の名工や文化功労者が秋田工芸展にほとんど出品しないのは、このような観点を理解していることによります。

以上のような秋田工芸展の性格から、今回、全国的な公募展入賞経験者や全国レベルの工芸団体所属者の方から応募があった場合は、無鑑査とさせていただくことになりました。そのような方の作品は秀逸であり、秋田工芸展では上位入賞するのが当然であると考えられますので、応募者みんなのお手本となる作品として、敬意を持って展示させていただくものです。

これまでは入賞作品に対してだけの審査員寸評でしたが、審査員増員で入選作品にも広げることが可能になりました。これは以前からの懸案事項で、ようやく実現の運びとなりました。点数表に加えて、今後の作品づくりの参考にしていただきたく考えています。皆様のステップアップのプラス材料になれば幸いです。

秋田工芸展は、向上心を持って工芸に取り組まれる方々にエールを送る存在でありたいと願っています。